興照寺報

平成30年3月
65号

発行　浄土真宗　興　照　寺
〒890-0045　鹿児島市武一丁目25番12号
電話 099-254-3269 (代)FAX 099-254-0303

一面　御同朋・御同行
二面　写経講座、会員募集
　　今あなたに伝えたい言葉
三面　報恩講法話、法事の意味
四面　行事案内とお願い

観世音菩薩立像（龍泉寺）
《冠の中央に阿弥陀様がいらっしゃいます。》

御同朋・御同行

年末から二月にかけて吹上では各地域で報恩講が催されます。その時にあるご婦人が「先生、近頃御同朋・御同行と言う言葉をあまり聞かなくなりましたね。」と、寂しそうに語られました。私は一瞬身が縮む思いがしました。日頃から〝先生、先生〟と呼ばれ煽てられて何か高見に立っている自分を見透かされているような気がしたからです。

『願以此功徳　平等施一切
同発菩提心　往生安楽国』

と言うお経の最後に唱える回向文があります。「阿弥陀様の一切の者を等しく救い取るという大悲心に包まれてそのことにお任せしてお浄土に仏として生まれさせて頂く」と、という意味です。親鸞聖人は信徒の方に「御同朋・御同行」と膝を突合せて、同じ高さの目線で話しかけて下さった方だと言われています。私がではなく皆が共に教えを聞く仲間であり、共に生きる念仏者であると言う事です。「御同朋・御同行」共にお浄土に行き仏になる仲間、互いに信頼と尊敬の念をもって「御同朋・御同行」と敬愛しあって生きるべきことを示されてある言葉です。

お寺も「御同朋・御同行」と同じ視線で語り合える場所でありたいものです。

（英清記）

写経講座を開設します

興照寺の新しい試みとして、五月から「写経講座（十回）」を開設します。

・日　時　毎月第一水曜日
　午後二時から
　約一時間の予定
・場　所　当寺一階ホール
・内　容　「正信偈」の解説と写経
・対象者　興照寺門徒を問わずどなたでも受けられます。

希望の方は寺へ申し込みください。

・定　員　約二十名
・費　用　実費
（詳しくは寺へ問い合わせください）

会員を募集しています

興照寺にもいくつか会があり、会員同士楽しく語らい、一緒に楽しいひと時を過ごしています。お寺をもっと身近に感じていただくためにもご参加なさいませんか。（詳しくは寺へおたずねください）会の活性化がお寺の活性化につながっていくと考えています。

親厚会（男性の会）

・毎月十七日午後六時から
・「正信偈」のお勤め、法話、懇親会
・夕食を共にし、飲みながら楽しく語らっています。
・会費　三千円（飲食費など実費を引いた額は返金しています）

（報恩講受付のお手伝い）

婦人会（女性の会）

・毎月十二日午後十二時
・「正信偈」のお勤め、法話、懇親会
・昼食を共にしながら楽しく語り合ったり、歌ったり、創作活動をしたりしています。
・会費　二千円（実費以外返金）

今あなたに伝えたい言葉

西本願寺が次世代へのメッセージを募集し、入賞八作品が選ばれ、その中から静岡市教覚寺門徒の井野政子さんの作品を紹介します。

〝あなたがうれしいと、私もうれしいよ。〟

『百歳になる母が施設に入所して四年。今は寝たきりですが、ある日私が「お母さんが元気でいてくれてうれしいよ」と言いますと、「あなたがうれしいと私もうれしいよ」と母が。母の言葉に親の深い愛情を感じました。親（仏）さまも、いつでも、どこでも、どんな時でも私に寄り添っていてくださいます。』

報恩講法要

（追悼法要のお話し　要約）

講師　北山　祐章　先生

私たちは亡くなっていかれた方々を偲びながら、ここにある私の命をたずねさせていただかねばなりません。私たちはこの世に「生」を受けたら次に何があるでしょう。生まれてきたら引き受けていかなければならない問題があります。それは老いていくという事です。「老」というのはただ歳を重ねていくという事ではなく、「時間的」に引き受けていかねばならない問題があるという事です。「生」には根源的に「老」という苦しみがあるのです。それをお釈迦様は「生老」といただかれました。「老」の次には何があるでしょうか。それは「病」です。しかし、ここで言う病とは痛い辛いとかいう〝やまい〟ではなく、そこに身を置いていかなければならない空間的な存在そのものが「苦」であるという事です。生まれた以上は老を引き受け、病を引き受けそれがそのまま時間的にも空間的にもそこに身を置いていかねばならない「苦」との背中合わせという事です。次が「死」です。生死という言葉があります。一般的には「せいし」と読みます。「生死の境をさまよう」とか使いますが、我々は生と死の間に境を引いているのではありませんか。生と死は一緒にできないという事です。自分の一生を考える時に人生の線を引いて今はこの位置を生きている、まだ先はあると考えていませんか。でも、これは娑婆の錯覚です。若い方もお年の方も生と死の際を歩いているのです。しかし、生と死の境はどこにも約束されていません。仏教では生死を「しょうじ」と読み、「生死一如」といただきます。生と死は背中合わせ一つのものということです。我々は死んでいく命を歩んでいるのではなく〝生まれる〟といただいていくのです。それが「往生浄土」の世界です。仏にならせていただく世界です。また、お浄土は「諸上善人　俱会一処」、共に一所に会える世界です。我々の世界は欲にまみれ、本当のものになかなか出会えない世界。だからこそ、私が今の現実を知り抜いたそこから、そういうあなただからこそ〝ほっておけない〟と、あなたのやり直すことのできない大切な命を迎え取ってくださるのが仏様のお働きなのです。

（英孝記）

法事の意味

一般的にご命日は、亡き方の命終わられた日をさします。

しかし、これでおわりでしょうか？

亡き方は、阿弥陀様に導かれ仏様になられたと仰ぎます。

つまり命日は、亡き方の仏様としてのあたらしい〝いのち〟の誕生の日ともいえます。

そして、私たちにとっては、亡き方をご縁とし、仏教に出遇わせていただき、我が〝いのち〟の意味を再確認させていただく日ともいえます。ご法事にあたり、自分の〝いのち〟について考えてみませんか。

（浄土真宗本願寺派「実践運動」東京教区委員会）

春季彼岸法要のご案内

三月	午前 十時より	午後 二時より
十八日(日)	○	○
十九日(月)	○	吹上
二十日(火)	吹上	／
二十一日(水) お中日	○	○

（○の日時にあります）

・講師　田村　浩州先生
（福岡県）

春季永代経法要のご案内

・期日　四月二十一日（土）
　　四月二十二日（日）
・時間　朝席　十時より
　　昼席　二時より
・講師　原中　秀峯先生
（福岡県）

※永代経志納を希望される方は、四月十五日までに寺へご相談ください。
〈永代経志納のお勤めは二十二日（日）の昼席に行います〉
※どなたでも聴聞できます。気軽にご参加ください。

花祭り

・日　四月五日（木）
・時間　十一時より
・場所　興照寺本堂
　　余興は駐車場
（雨天時は本堂）
（和順会総会も合わせて行います）

✿花祭り関係諸募集✿

■帰敬式参加者
《帰敬式とは法名を受ける式です。法名は本来生前に受けるものです。当寺では、毎年一回、花祭りの際に行っています。》是非この機会にお受けください。

■余興参加者
踊り・カラオケ・詩吟・楽器演奏などの参加者を募集しています。
ふるってご参加ください。
【帰敬式を受けたい方、余興参加希望の方は、三月二十五日(日)までにご連絡ください。】

門徒会費のお願い

平成三十年度の門徒会費納入〈年額二千円〉をお願いいたします。

■納入方法
①同封の振込用紙を使い、近くの郵便局から振り込む。
②寺へ持参される。
③命日などで、ご自宅へお参りに伺った際に預けていただく。
（手数料は不要です）

■納付期限
五月末までにお願いします。

納骨堂管理費のお願い

管理費の納入をお願いいたします。（金額　年額　一万円）
同封振込用紙に門徒会費・管理費の合計の金額が記入されていますので、門徒会費の納入方法と同じ要領でお願いいたします。
彼岸中に寺で納金される際は、受付が混雑する場合があります。懇志と区別して、「門徒会費です」と明示してください。また、領収の半券を忘れずにお受け取りください。

お盆参りについてお願い

お盆のお参りについて、門徒会費の振込用紙を利用して皆様のご希望をお伺いいたします。
（詳しくは同封別紙をお読みください。）

あとがき

大河ドラマ「西郷どん」が幕を開けて二カ月過ぎました。
いよいよ西郷どんが江戸へ向かい維新への活躍が始まります。史実とは違うところがありますが、あくまでもドラマですのでムキにならないようにしましょう。
これからの展開に期待しながらわが郷土の偉人達に注目していきたいと思います。
（英憲記）